

2013 年日本建築学会賞（技術）

選 考 経 過

2013 年の技術部門の応募は 4 件であった。候補業績の分野は、材料・施工関係 1 件、構造関係 2 件、そして複合関係が 1 件であった。

これらの多様な業績を評価するにあたり、第 1 回技術部会において規程類の確認、応募候補業績の確認を行うとともに、審査方針を検討した。候補業績を書類およびヒアリングを基礎資料とし、必要に応じて現地審査を加えることとして、独創性・画期性を主に、有効性、応用性、その他についても詳細に検討し、最終的に総合評価することとした。

また、ヒアリング審査の円滑化のため、事前に質問事項を候補者に連絡することとし、その質問事項の抽出と同時に、候補業績の担当分けを行い精査した。なお、公明な審査を行ううえで、候補者らと同一組織に属する 1 名の委員については、職務は停止しないが、当該候補業績の審査には一切関与しないことを確認・合意した。

ヒアリング審査は 2012 年 12 月 22 日に候補業績 4 件すべてについて、業績内容の説明とそれに続く質疑応答という形式で行った。引き続いて第 2 回技術部会を開催し、日本建築学会表彰規程等に照らし、選考にあたっては厳選寡少を旨として表彰業績の数は 3 件以内、賞を受ける者は業績との適切なかわりが認められるものとすることを確認した。候補業績一件一件について、業績内容に照らして審査委員相互の意見を交換し、投票を含めた慎重審議の結果、2 件の候補業績を委員全員一致で表彰業績候補として選出した。この結果は第 3 回部会において再確認した。

表彰業績候補「超高層建物の閉鎖型解体工法の開発」は、超高層建物の解体工事における騒音、粉塵の飛散、振動、解体材の落下などの課題に対して、閉鎖型にし、上層階から安全に解体するためのジャッキダウン装置を開発し、解体部材を降ろす際の位置エネルギーを電気エネルギーに転換して利用する装置などの、要素技術を巧みに組み合わせたシステムで解決したものである。今後の超高層建物の解体工事において、環境配慮および安全性向上が期待できる点が高く評価された。

表彰業績候補「再生骨材のコンクリートへの適正利用に関する技術開発」は、構造物の解体時に発生するコンクリート塊を破砕した再生骨材の有効利用に関する技術開発である。解体構造物および原コンクリートの骨材に関する情報をもとに有害な骨材を排除する品質管理システムと、再生骨材を普通骨材と混合して品質を調整してコンクリートの要求性能に適合する再生骨材の設計方法からなっており、有効利用できる骨材収率を低下させることなく、コンクリートの性能を確保できる点が高く評価された。

そのほか 2 件の候補業績もそれぞれ評価すべき点はあったが、選考主旨に照らして総合的な評価が顕彰水準に及ばなかった。

なお、技術部門への応募業績件数は、ここ数年 10、11、7 件と推移してきたが、本年は 4 件に減少した。技術部門の対象分野の広さ、あるいは技術関連の情報量から考えると、応募はいかにも過少である。技術部会としては、今後さまざまな角度からの幅広い応募を期待するものである。